

### ●情報セキュリティ

富士フィルムグループでは、情報セキュリティを重点リスク課題の一つと位置づけ、近年増加するサイバーセキュリティの脅威に対応するため、体制や施策の強化、見直しを継続的に実施しています。内部からの情報漏えいや外部からの攻撃への対策については、グループ共通の考え方で進めるため、「グローバル情報セキュリティ規程」を定め、グループ全体で情報セキュリティの維持向上に取り組んでいます。従業員に対しては、「不審メール対応訓練」や「情報セキュリティ教育」を行い、意識向上を図っています。また、万が一の情報セキュリティ事故に備え、富士フィルム・富士ゼロックスそれぞれに「情報セキュリティ・インシデント対応チーム」を設置し、事故被害の抑止に取り組んでいます。個人情報についても、「個人情報保護方針」「個人情報保護規程」を定め、定期的に監査及び従業員教育を実施し、保有

する情報を適切に管理しています。2017年度は、2018年5月の「EU一般データ保護規則(GDPR)」適用開始に先立ち、欧州地域統括会社と協働して対応を実施しました。

### ●腐敗防止

「富士フィルムグループ企業行動憲章・行動規範」では、公務員や政府関係者、及びお取引先との関係について、慎重かつ細心の配慮をもって臨み、汚職行為に関与しないこと、公正を疑わせる贈答品の授受や接待を行わないことを明記しています。また、近年の世界的な腐敗防止法令の執行強化を受け、各社で腐敗防止規程を導入し、比較的风险が高いと思われる地域を中心に、実地監査も含め定期的な監査を実施しています。なお、富士フィルムグループでは過去に当局から腐敗行為で調査を受けた事例はありません。

## TOPICS

### ガバナンスの強化

全従業員にオープン、フェア、クリアな事業活動推進を再徹底

富士フィルムグループは、2017年に明らかになった富士ゼロックスの海外子会社での不適切会計問題への対応策として、ガバナンス強化委員会(2018年6月30日に解散)を中心に、再発防止のための活動に取り組まれました。主要な活動は下記の通りです。

#### ●コンプライアンス教育・メッセージの発信

グループ全体の意識向上を目的として、全従業員に対し、富士フィルムホールディングス社長からコンプライアンス重視のメッセージを伝えるとともに、当該事案の概要、対応経緯、問題点と原因、並びに本事象を教訓とした取組方針について、リーダー層向けには2017年9月末、その他の従業員向けには同年11月まで研修・教育を行いました。また、トップマネジメントによる「オープン、フェア、クリアな事業活動推進の再徹底」というコンプライアンス重視のメッセージをウェブサイトで対外的に発信、社内的にも社内報やイントラサイト等で発信しています。

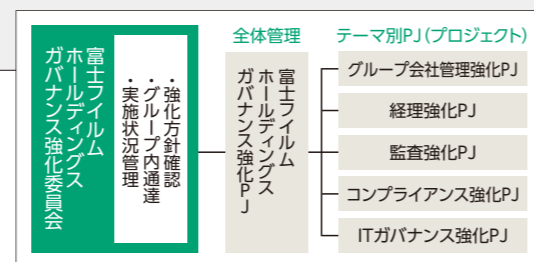
#### ●コンプライアンス意識調査

コンプライアンス研修・教育によるコンプライアンス意識の浸透度確認、及び不正や不祥事の端緒の早期発見を目的として、2017年12月にグループ全従業員93,000人を対象とした意識調査を実施し、ほぼ全従業員から回答を得ました。今回の事案の理解、職場でのコンプライアンス優先度は90%以上、富士フィルムグループで働くことの誇りは84%など、良好な結果でした。この結果は社内で周知し、コンプライアンス意識のさらなる向上に繋がります。

#### ●富士フィルムホールディングス(FH)ホットラインの設置

これまで各社ごとに導入していた内部通報制度に加え、制度の実効性確保の観点から、グループ全従業員が直接FHに通報で

#### ▼ガバナンス強化のための推進体制

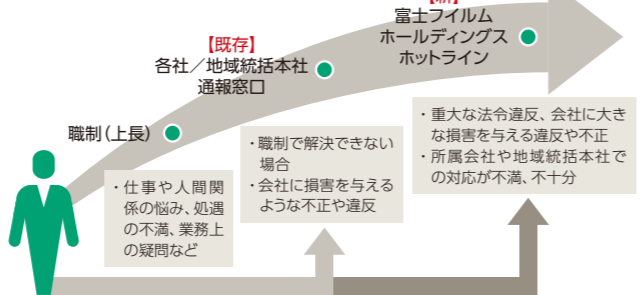


きる制度「FHホットライン」を新たに設置しました。通報は外部に委託した窓口で受け付け、FH CSRグループに報告された後、社長を委員長としたCSR委員会にも報告されています。相談・通報には相談者保護に配慮した上で適切に対処しており、本窓口を通じた違反行為の早期発見に努めています。

#### ●事前報告規程の制定

2017年10月1日、「富士フィルム(FF)及び富士ゼロックス(FX)の取締役会付議事項に関する事前報告規程」を制定しました。FF及びFXの取締役会に付議する際は、担当部門がFH管掌役員に対して事前報告を行うものとし、内部統制を強化しています。

#### ▼富士フィルムホールディングスホットラインの位置づけ 想定される主な相談例



## その他のCSR活動



### お客様の声を反映した製品・サービス

#### 基本的な考え方

富士フィルムグループは、企業理念でうたっているように、「顧客満足 (CS: Customer Satisfaction)」を経営の基本とし、お客様にとって安全・安心で魅力ある「最高品質の商品、サービス」の提供を目指しています。お客様に満足していただくためには、お客様の多様な声を拾い上げ、効果的に商品・サービスに反映できる仕組みが重要です。そのため、お客様との接点となる窓口でのコミュニケーションを大切に、迅速・親切・的確・公平性を基本とした対応を図るとともに、お客様の声を正しく把握し、業務プロセスや製品開発の改善につなげる体制を構築しています。

#### 2017年度の活動

関連資料・データ:P57

富士フィルムグループでは、イメージング、ヘルスケア&マテリアルズ、ドキュメントの3つのソリューションを掲げ、一般消費者から企業、病院など多様なお客様に向け、各事業及び製品の特性に適したお客様対応を行っています。

一般消費者向け製品としてはイメージング製品とヘルスケア製品がありますが、イメージング製品については、スマートフォンやミラーレスデジタルカメラの急速な普及拡大に伴い、使い方やメンテナンスなど、製品を取り巻く環境が多様化しています。各種製品のサポート窓口の利用や、製品購入に伴い会員登録されたお客様には、2017年度の「顧客満足度アンケート」を通じて、約23,000件もの回答をいただき、それらをお客様の声として有効活用しています。

また、サプリメントや化粧品などのヘルスケア製品では、社内の「お客様満足度向上委員会」が中心となり、お客様のお声をもとに商品やサービスの改善を進めています。「不在時でも受け取りやすいように宅配便ではなくポストインにしてほしい」とのお声に、サプリメントのボトルタイプに加えて袋タイプ製品を開発しました。ポストインでのお届けが可能になったことに加え、「袋タイプは旅行などの携帯に便利」とのうれしいお声もいただきました。

一般消費者向け製品については、お客様自身でいつでも問題解決できるQ&Aの充実化など、今後もお客様の声にお応えするために、インターネットを積極的に活用し、より一層の改善を進めていきます。

一方、企業のお客様に向けては、各事業とも、研究開発・製造・技術部門の社員が、保守部門と一緒にお客様先に同行し、お客様の業務課題を直接肌で感じ理解しながら、全工程における「お客様視点」での意識向上に努めています。

また、CS(顧客満足度)評価の仕組みとして、定期的にお客様から評価をいただく活動も継続しています。特にドキュメント事業では、2017年度に「ユーザーCSプログラム」を通じて62,000件の調査を実施、その評価内容に応じたフォローと改善活動によりお客様との関係性向上に役立てています。同事業では、J.D. パワー社による「2018年カラーコピー機顧客満足度調査<ラージ&ミドルオフィス市場セグメント>」において業界初の9年連続1位\*の評価をいただいています。

今後もお客様との長期的な相互信頼関係を維持する上で、より一層のCS向上とコンプライアンスの徹底を行い、全社一丸となりお客様の期待と要望に応えていきます。

\*J.D. パワー 2010-2018年カラーコピー機顧客満足度調査。2018年調査は従業員30名以上の企業6,868社から回答を得た結果による <http://jdpower-japan.com/ranking/>

#### お客様からの声を形にした改善事例

The diagram shows two examples of improvements based on customer feedback. On the left, a product image is shown with the text: 'Not by home delivery, but by post, so that it can be received easily, we considered packaging that can be used in a bag type' (宅配便ではなく、時間を気にせず受け取れるように、ポスト投函が可能な袋タイプのパッケージを考案(右が袋タイプ)). On the right, a diagram shows the 'Delivery box opening method - folding the top flap (small size case)'. It includes three steps: STEP 1: 'Open the front star part' (手前の★部分を開く); STEP 2: 'Fold the side flap inward' (側面を内側に折りたたむ); STEP 3: 'Complete' (完了). Below the steps, it says: 'Put your finger in the hole, pull it forward, and tear the slit' (穴に指をかけて、手前に引き、ミシン目を切り離す) and 'Open the box as is' (そのままフタを開く). The final note is: 'Delivery boxes are easier to open and fold, and the design is also designed to be fun' (配送箱をより開けやすく、折りたたみやすいように改良し、開け方も明記。デザインにも遊び心を持たせている).

TOPICS

## イメージング製品の魅力を体感できる「FUJIFILM Imaging Plaza」

富士フィルムは、2018年4月、イメージング製品の魅力を体験できるブランド発信拠点「FUJIFILM Imaging Plaza」を東京・丸の内駅の皇居前にオープンしました。本拠点では、最新のミラーレスデジタルカメラや交換レンズを手にとって体験できる「タッチ&トライコーナー」をはじめ、第一線で活躍する著名写真家の作品をご覧いただける写真展会場「FUJIFILM Imaging Plaza Gallery」などを設けています。また、デジタルカメラライフをさらに楽しくする各種セミナー、カメラやレンズのレンタルサービス、フォトブックをはじめとする写真の楽しみ方を提案する各種

プリント展示など、様々な企画・イベントを実施し、より多くの方に「Xシリーズ」「GFXシリーズ」の魅力と高画質プリントの楽しみを体感いただける機会を提供しています。

一方、プロ写真家向けには、「Xシリーズ」「GFXシリーズ」をご利用いただいている方々のための会員制サポートサービス「FUJIFILM Professional Service (FPS)」を展開。その場で機材点検などを行うオンサイトメンテナンスを初めて実施するほか、拠点内に設置したスタジオでは、各種ライティングやテザー撮影※の体験など、プロ写真家の幅広いニーズに対応しています。

富士フィルムは本拠点を通じて、カメラ初心者からプロ写真家まで幅広い顧客とのダイレクトコミュニケーションをさらに強化し、顧客満足度をより一層向上させるとともに、イメージング製品の魅力を広く発信することで、写真文化のさらなる発展に貢献していきます。

※テザー撮影：シャッターをカメラと接続したパソコンなどで制御する撮影

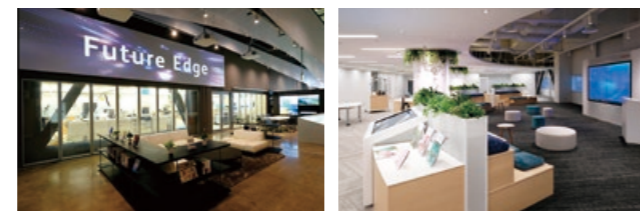


4月28日に開催されたオープニングイベントと「FUJIFILM Imaging Plaza」の様子

## お客様と共に印刷技術を活用したコミュニケーションの変革に取り組む

富士ゼロックスは、2018年5月、印刷技術を活用したコミュニケーションの変革にお客様と共に取り組むオープンイノベーション拠点「Future Edge (フューチャー・エッジ)」を神奈川県海老名市に開設しました。本拠点は、機器や関連ソフトウェアを展示するための単なるショールームではなく、コミュニケーションビジネスの未来 (Future) に向け、変革を起していく最先端 (Edge) の場となることを目指しています。

人々の嗜好や価値観は、社会環境の変化やグローバル化により多様化しており、コミュニケーション手段においても、多様性が求められています。こうしたなか、デジタル印刷がより一層の有用性を発揮していくためには、機動性・柔軟性といった特長をさらに伸ばして、少ロット・多品目生産に関する要求水準の高まりに順応し、価値観の多様性を反映する仕組み作りが求められます。本拠点で取り組むのは、コンテンツを生成する「上流工程」

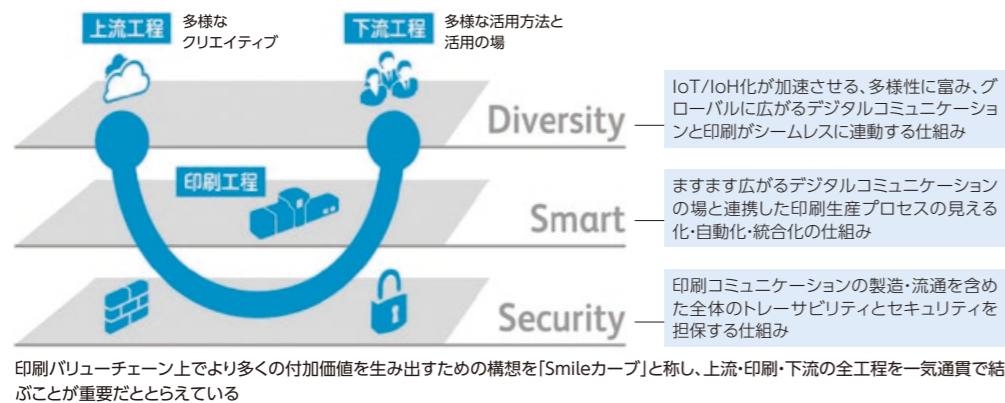


総面積約7,000㎡のスペースには、富士ゼロックス製の全プロダクションプリンター・関連ソフトウェアやサービスに加え、富士フィルムのインクジェットデジタルプレスや印刷ワークフローシステムなどを集結

から生産工程を経て、必要とされるタイミング・場所・かたちで届ける「下流工程」までの、印刷バリューチェーン全体におけるコミュニケーションビジネスの変革です。また、印刷業務における生産性向上や働き方改革の実証にも取り組みます。

技術開発拠点である海老名市事業所内にあることで、営業やシステムエンジニアだけでなく、開発・生産担当者も直接お客様と課

題を議論しながら、新たなビジネスモデル実現に向けて迅速に動くことが可能です。さらに、常に最先端の仕組みやノウハウの実装を図るために、国内外のパートナー企業やイノベーターとの連携をこれまで以上に加速させ、印刷バリューチェーン全体の変革にお客様と共に取り組んでいきます。



## 社会貢献活動

### 基本的な考え方

富士フィルムグループでは、企業が社会に対して果たすべき責任として、社会の持続可能な発展に貢献し、良き企業市民として社会とともに歩み、社会の要請や期待に誠実に応えることを掲げています。2008年に社会貢献方針を定め、活動の対象として、「学術・教育」「文化・芸術・スポーツ」「健康」「自然環境保全」の分野を中心とし、NGO・NPO、地域社会などとの協働・連携、そして従業員の自発的参加による貢献を大切に活動しています。

 富士フィルムグループ 社会貢献方針 <http://www.fujifilmholdings.com/ja/sustainability/mission/society.html>

### 2017年度の活動

関連資料・データ:P68

富士フィルムグループでは、事業活動を通じて社会に貢献するとともに、企業市民として地域社会とも積極的に交流を行い、社会の持続的発展に貢献する活動を行っています。事業の特性を生かし、文化財・美術品のアーカイブ化 (記録保存)、伝統文書の複製と活用、新興国や災害現場への医療機器提供、新興国における教育支援、弱視児童向けの拡大教科書の製作支援など、富士フィルムグループならではの特徴的な活動を多く実施しています。2017年度は、富士ゼロックスが伝統文書の複製を通じた文化伝承活動として、鹿児島県薩摩川内市の「西郷隆盛の直筆の書」と宮城県大崎市の「文政十一年従四位下少将伊達齊邦公下向行列次第」の複製を各々の市に贈呈。こうした継続的な活動が評価され、メセナ協議会主催のメセナアワード2017「特別賞:文化庁長官賞」を受賞しました (P55参照)。

### ▼継続的に実施している主な社会貢献活動

- 本業を通じた社会貢献**
  - 写真救済プロジェクト (富士フィルム)
  - 文化財のデジタルアーカイブ化 (富士フィルム)
  - "PHOTO IS" 想いをつなぐ。50,000人の写真展 (富士フィルム)
  - アルバムカフェ (富士フィルム)
  - 伝統文書の複製と活用 (富士ゼロックス)
  - ピンクリボン運動 (富士フィルム)
- 将来世代への教育支援**
  - 若者世代への写真教室 (富士フィルム)
  - 弱視児童向けの拡大教科書製作支援 (富士ゼロックス)
  - 新興国における教育支援 (富士ゼロックス)
- 環境保全・生物多様性**
  - 富士ゼロックス株式会社小林基金 (富士ゼロックス)
  - 版画コレクション (富士ゼロックス)
  - スペシャルオリンピックス (富士ゼロックス)
  - 聞き書き甲子園 (富士フィルム)
  - 「みどりの小道」環境日記 (富士フィルム)
  - 「Kids' ISO 14000」プログラム (富士ゼロックス)
- その他**
  - 公益信託 富士フィルムグリーン・ファンド (富士フィルム)
  - わたしの自然観察路コンクール (富士フィルムグリーン・ファンド 他)
  - 南阿蘇「地下水保全活動」 (富士フィルム九州)
  - 中国・ベトナム植林ボランティア活動 (富士フィルム)
  - 自然観察指導員講習会 (富士ゼロックス:端数倶楽部)

また、環境教育をはじめとした教育支援活動、地域との共生を図る様々な活動を継続的に行っています。子供たちへの写真のワークショップ、ピンクリボン運動などは、世界各地へ活動が広がっています。東日本大震災及び熊本地震への復興支援活動も、継続的に実施しています (P55参照)。



海外での代表事例としては、富士ゼロックスが新興国における児童の教育格差是正への貢献を目的に実施している初等教育レベルの教材配布があります。2014年にフィリピンで活動を開始し、2015年度はミャンマー、タイ、2016年度はベトナム、インドネシア、2017年度は同5カ国での活動を継続・拡大するとともに、マレーシアでの活動も開始しました (P54参照)。富士フィルムの中国での植林活動は、活動開始から20年を数え、過去に植林した樹木のメンテナンスも含めて活動を継続したほか、新たにベトナムでのマングローブ林の再生活動を開始しました (P54参照)。



今後も、様々な団体・ステークホルダーとのパートナーシップを重視し、本業を生かした社会課題解決に資する社会貢献活動を推進していきます。



2017年は富士フィルム九州の地下水保全活動への積極的な取り組みが評価され、第26回「くまもと環境賞」(熊本県主催)において「くまもと水の国賞」を受賞。写真上:授賞式、下:かん養田の一環として参加している「水田お助け隊」

社会貢献活動の支給額	
(単位:百万円)	
将来世代への教育活動	74
地域社会との調和	105
社会への文化芸術振興 (国内)	895
国際社会の文化・社会への配慮	2
NGO・NPOとの協働	76
合計	1,152



**フランス**  
乳がん撲滅キャンペーンの女性限定マラソン大会に参加

FUJIFILM France S.A.S.のチームが、乳がん撲滅のキャンペーンと乳がん研究の資金調達を目的とした女性だけのマラソン大会「ラ・パリジェンヌ」に初めて出場、参加登録した475社のうち69位になりました。ラ・パリジェンヌには10年の歴史があり、この期間に乳がん研究を支援する目的で898,000ユーロ(約1,050,000ドル)が集められ、23件のプロジェクトに資金調達されています。2017年は2万8,000人の女性が参加、参加企業475社によって71,000ユーロ(約80,000ドル)が集められました。



**ベトナム**  
20年目を迎えた「緑の協力隊」ベトナムのマングローブ林再生を開始

富士フィルム労働組合は、1998年から中国・内モンゴル自治区ホルチン砂漠で緑化ボランティア活動「緑の協力隊」を行ってきました。20年目となる2017年は、協働してきた富士フィルム(中国)投資有限公司の活動が根付いてきたことを受け、同活動を同社に任せることとしました。次の活動として選んだのはベトナム・カンザー地区でのマングローブ林の再生活動で、富士フィルムグループ全体から計30名が参加、約300本のマングローブの幼苗の植え付けとより定着率の高い苗木の植樹を行いました。今後も継続して実施していきます。



**マレーシア**  
マレートラの生息地を保護する自然保護活動に参加

FUJIFILM Malaysia (FMAL)の従業員が、非政府組織MYCAT(マレーシア・トラ保全同盟)が主催する「CAT Walk」に参加しました。MYCATはマレー半島最大のトラの2つの生息地を結ぶSungai Yuの生態系回廊(コリドー)を保護することを目的としており、CAT Walkは市民ボランティアによる自然保護のためのアクションプログラムです。密猟や森林伐採を監視するために参加者は森林で1泊し、絶滅のおそれのある野生動物を捕獲するための密猟者の罠を取り除くなど、環境保護者が環境を保護する方法を体験し、多くのことを学びました。



フィリピン、ミャンマー、タイ、ベトナム、インドネシア、マレーシア

**教育格差是正を支援する新興国における教材提供プロジェクト**

富士ゼロックスは、アジア・パシフィック地域の新興国における、児童の教育格差是正を支援するための教材提供活動を2014年度にフィリピンで開始しました。2015年度はミャンマー、タイ、2016年度はベトナム、インドネシア、2017年度はマレーシアへと活動を順次拡大しています。各国の状況やニーズに応じて支援の形も様々に変化させながら、これまでのプロジェクト全体の支援児童数は約87,000人、活動に参加した従業員は延べ500人になりました。今後も各国における着実な活動を継続し、2023年までに10万人の児童への配布を目指しています。



ベトナムでは辺境地域の図書館・図書室などに修学前児童を対象とした読み物・絵本を提供  
多民族国家マレーシアでは、英語力に課題を抱える児童を支援するNGOと連携



**日本**  
伝統文書の複製と活用で希少な文化や情報の伝承を支援

富士ゼロックスは、社会貢献の一環として伝統文書の複製を通じた文化伝承活動を2008年から実施。今までに、250点以上の複製品を贈呈してきました。2017年は、鹿児島県薩摩川内市の「西郷隆盛の直筆の書」や宮城県大崎市の「文政十一年従四位下少将伊達斉邦公下行列次第」の複製品を贈呈。そうした取り組みの結果、メセナ協議会主催のメセナアワード2017「特別賞:文化庁長官賞」を受賞することができました(写真は薩摩川内市 岩切市長(右側)への複製品贈呈)。



**アメリカ**  
ハリケーン被害のプエルトリコに超音波診断装置を提供

2017年8月と9月、プエルトリコと米国テキサス州には、「マリア」と「ハービー」という2つのハリケーンにより甚大な被害もたらされました。FUJIFILM Holdings America Corporationは米国全社で募金活動を実施、従業員の寄付金額は10,000ドルを超えました。またFUJIFILM SonoSite, Inc(FFSS)は、プエルトリコの緊急医療の現場の最前線で使用するため、SonoSite M-Turbo 超音波診断装置を提供しました。このシステムは、その持ち運び可能な特徴から、世界中の災害現場で活用されています。



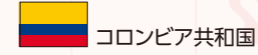
**アメリカ**  
子供病院に入院する子供たちへのイベントをサポート

FUJIFILM Holdings America Corporation (HLUS)のヴァルハラ事務所は、年末年始前の寄付活動の一つとして行われる子供へのおもちゃの寄付活動「ホリデートドライブ」を主催、プライスデール子供病院とマリア・フェアリ子供病院への支援を行いました。社内の各フロアに募金箱を設置、さらにプライスデール子供病院で毎年行われている特別慈善コンサートであるクリスマスショーにも参加しました。イベント参加時にはHLUSのスタッフがInstaxで子供たちを撮影、イベントを盛り上げました。



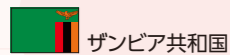
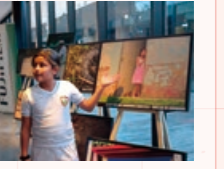
**日本**  
労働組合の記念イベントで「ウォーキング&グリーン作戦」を開催

富士フィルム労働組合結成70周年及び富士ゼロックス労働組合創設40周年を記念した合同メモリアル行事として、創業の地であり、多くの富士フィルムグループ従業員が働く神奈川地区で、地域への感謝の気持ちを込めて「ウォーキング&グリーン作戦」を開催しました。今回は両社の組合員に加えて、その他の富士フィルムグループ健康保険組合の従業員とその家族も含めた計225名が参加。事業所がある地域を歩きながら清掃することで、健康や環境、地域社会への貢献について考える一日となりました。2018年には、第2弾として首都圏近郊で同様の合同イベントも企画しています。



**コロンビア共和国**  
写真を通じて傷ついた子供たちの心をサポート

FUJIFILM COLOMBIA S.A.S.(FFCO)は非営利プロジェクト「Reporters of peace」をサポートしています。暴力や戦争の影響を受けたメタ、メタスに住む8~12歳の子供たち20人に、写真撮影を通じて生まれ育った地域の紛争、和解、平和に関する感情や考えを表現してもらい、コロンビア全土の暴力による犠牲者に捧げられたMemory, Peace and Reconciliation Centerで開催された写真展で展示しました。子供たちはメタス市長をはじめとした出席者に、撮影した写真の背景にある物語を説明する機会も得ました。なおFFCOは、展覧会用に写真をプリントするとともに、彼らが自分自身のカメラを持ち、引き続き写真撮影を楽しむことができるように、X-A5を1台寄付しました。



**ザンビア共和国**  
X線画像診断システムの導入と教育活動で医療の質向上に貢献

FUJIFILM South Africa (Pty) Ltd. (FFZA)は、日本政府が資金を提供している「草の根・人間の安全保障無償資金協力」を通じて、ザンビア共和国のペイト・キュア病院に「FCR PRIMA T2」をはじめとしたX線画像診断システムを導入、また専門技術者によるデジタル画像処理のトレーニングを実施しました。FFZAはこれまでにザンビア共和国の13の医療機関にX線画像診断システムを導入しており、ザンビア共和国の医療の質向上に貢献しています。



**タイ**  
サンゴの繁殖や植え付けを行う環境保全活動をサポート

FUJIFILM (Thailand) Ltd.(FTAI)は、海洋科学保存財団の支援のもと、サムサンビーチ周辺のサンゴの繁殖と植え付け活動に参加、水中保全活動の記録のために防水デジタルカメラ「FinePix XP120」を寄贈しました。タイのサンゴ礁は、違法なサンゴの採取と環境条件悪化のために著しく劣化しており、サンゴ礁という天然資源に依存している地域にとっては、こうした保全活動が重要になっています。またFTAIは、サンゴ保全活動に加え、同地域の30人の子供たちのための写真撮影のワークショップを開催しました。



東日本大震災・熊本地震復興支援活動

物産品購入による被災地復興支援

富士フィルムホールディングスは全国の富士フィルムグループ従業員を対象に、労使共催(富士フィルム生活協同組合後援)で東北・熊本の物産品を紹介・販売する「通信販売&一部商品の試食会」を実施しました。商品の魅力を紹介するために各事業場で開催した試食会、及び社員食堂での試食品提供は盛況のうちに終了。従業員が復興支援に貢献する身近な機会となったうえ、職場の活性化にも貢献しました。



中国限定のくまモン「チェキ」で熊本の観光を支援

FUJIFILM (China) Investment Co., Ltd.(FFCN)と富士フィルム九州(FFQ)が共同で企画した熊本のPRキャラクター、くまモンがデザインされた「instax mini 8 KUMAMON」(くまモン「チェキ」)が2017年10月に中国限定で発売されました。FFCN設立15周年記念に共催で行われた九州への社員旅行で、熊本の甚大な被災状況を目のあたりにしたFFCN従業員たちが、「熊本復興の支援ができれば」と考えたことがきっかけです。中国でも人気の高いくまモンの「チェキ」を通じて同県のPRを行

うことを考案し、熊本県庁と良好な関係を築いているFFQとの共同で実現しました。商品には、中国の方々から熊本に興味を持ち、旅行に訪れてもらえるよう、パッケージやチェキフィルムに熊本の観光地や特産品を掲載したり、オリジナルの観光ガイドマップをつけるなど、熊本の魅力を伝える工夫を行っています。

